

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 63

学校名・団体名	岡崎市立三島小学校研究部
HPアドレス	http://cms.oklab.ed.jp/el/misima/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域社会のひと、もの、ことを生かした教育課程 の創造

〈活動・研究の意義、目的〉

具体的なひと、もの、ことに直接触れたり、体験したりするなかで探究学習を積み重ねれば、より確かな「思考力、判断力、表現力」が育つ。

本校は、平成26年度から28年度までの3年間、「思考力・判断力を伸ばす社会科・生活科の授業」をテーマに掲げて研究を行ってきた。そして、社会科・生活科において身近な教材・地域の教材を開発すれば子供の思考力、判断力を伸ばすことができる、という成果を得ることができた。

そこで、本年度は、これまでの研究を発展させ、取り組む領域を他の教科・領域、特別活動、学校行事に広げ、地域社会のひと、もの、ことを生かした教育課程を工夫して、計画的に進めていけば、学校全体の教育活動の質を高めることができると考え、本主題を設定した。

1 活動内容

(1) ビオトープ再整備 (全校)

①ねらい

校地内に、地域の調整池である「みどりが池」がある。約25年前に整備されたが、歳月が経ち、子供たちが学習に利用するには危険な状態になっている。このみどりが池とその周辺をビオトープとして再整備し、理科、生活科、総合学習、国語科などで安全に活用できるようにする。

②活動の特色

- ・児童と教職員が協力してみどりが池の再整備を行った。
- ・整備したみどりが池を様々な学習で活用した。

③活動内容および時期

- ・みどりが池一面に繁茂した葦、ガマの穂などを駆除した。(1・2学期)
- ・みどりが池の観察デッキ、護岸を整備した。(2・3学期)
【「助成金」を活用して塗料、資材を購入】
- ・みどりが池を学習に生かした。<2年生活科でのザリガニ釣り、5年国語科での俳句づくり、理科や総合学習での野鳥やカメなどの生き物の観察>(通年)

(2) 学区内にある愛知県立岡崎盲学校との「ふれあい交流」(4年生)

①ねらい

盲学校小学部の子供たちとの交流やアイマスク体験などを通して、温かい心情の育成(思いやり、優しさ)、福祉の理解(障害者理解、共生社会の意義理解)、実践的態度の育成(共に学び、助け合う態度)を図る。

②活動の特色

- ・昭和54年から続いている盲学校小学部との交流を継続、発展させる。

③活動内容および時期

- ・アイマスク体験、ガイドヘルプ体験を行った。(1学期)
- ・盲学校を見学したり、盲学校の先生から説明を聞いたりした。(2学期)
- ・「ふれあい交流会」に向けて一緒に楽しむ遊びを考え、準備した。(3学期)
- ・盲学校の体育館で「ふれあい交流会」を実施した。(3学期)
【「助成金」を交流のための材料等購入に利用】

(3) 地域の方を講師に招いた「俳句教室」の実践(5年生)

①ねらい

国語の授業の外部講師として、地域の俳句の会の方々を講師として招いて、俳句に親しむ。

②活動の特色

- ・小グループごとに1名、全体で8名の地域講師をお願いして俳句について学んだり、俳句をつくらしたりする。
- ・季節感溢れるみどりが池周辺を中心とした校内を散策して俳句をつくる。
- ・地域講師の方とともに、学習のまとめとして句会を行う。

③活動内容および時期

- ・俳句についての学習を進め、俳句をつくり、句会を行った。(2学期)
【「助成金」を活用して地域講師の方を招聘】

(4) 地域の方を講師に招く総合学習「すてきな人見つけた」の実践(3年生)

①ねらい



環境委員会の児童によるみどりが池の清掃



「助成金」で購入した塗料で観察デッキを補修



「助成金」で購入したU字溝で護岸を補強整備



整備した池に飛来するようになったカワセミ



【生活科】池でザリガニ釣りをする2年生

学区に住んでいて、意欲的に各種活動をされている方（「すてきな人」）を子供たちがみつけ、講師として学校にお招きして、小グループで話を聞いたり、ふれあったりする。それぞれの方が、問題意識や興味関心をもとに、生きがいをもって活動されていることを知り、子供たちが自己の生き方を考えることができるようにする。

②活動の特色

- ・子供たちが、学区の「すてきな人」を見つける。
- ・小グループ（1グループ5名程度）ごとに1名、全体で10名の外部講師を招いて質問をしたり、話を聞いたりする。
- ・「すてきな人」の生き方にふれることを通して、自己の生き方を考える。

③活動内容および時期

- ・「すてきな人」をさがした。（2・3学期）
- ・「すてきな人」を学校へ招いて、話を聞いた。（3学期）

【「助成金」を活用して地域講師の方を招聘】

（5）「教材開発」「カリキュラムデザイン」についての教員研修・授業研究の計画的な実施

①ねらい

外部講師を招いて、「教材開発」「カリキュラムデザイン」についての研修会を実施する。

また、国語、算数、社会、理科、道徳、生活科・総合学習、音楽、家庭の8つの教科・領域の授業研究会を実施する。さらに、先進校の視察を行う。こうして、新しい時代に求められる教育課程、地域社会のひと・もの、ことを生かした教育課程のあり方について識見を高め、教育活動の質の向上を図る。

②教員研修（期日・内容・講師）

- ・6月1日 授業づくりについて
講師：岡崎女子大学教 蜂須賀渉教授

③授業研究会（期日・教科・講師）

- ・5月11日 音楽科授業研究会（講師：市教科指導員）
- ・6月21日 算数科授業研究会
講師：愛知学泉大学 和田秀夫准教授
- ・9月20日 生活科総合学習授業研究会（講師：市教科指導員）
- ・10月19日 家庭科授業研究会（講師：市教科指導員）
- ・11月9日 社会科授業研究会
講師：広島大学大学院 木村博一教授
- ・1月24日 国語科授業研究会（講師：市教科指導員）
- ・1月25日 理科授業研究会（講師：市教科指導員）
- ・2月8日 道徳授業研究会
講師：一宮市立浅井中学校 山田貞二校長

【「助成金」を活用して講師を招聘】

④先進校視察

- ・11月18日 広島大学附属東雲小学校研究会 教員1人派遣
- ・2月9、10日 広島大学附属小学校研究会 教員1人派遣
【「助成金」を活用して教員を派遣】

2 成果

○みどりが池にカワセミやサギが飛来するようになった。また、護岸を整備したり、観察デッキを補修したりすることもできた。これによって、安全で魅力的なビオトープとすることができ、様々な学習に活用できるようになった。

○地域講師の方を招聘したり、盲学校小学部児童との交流を深めることで、学びの質が高まったり、温かい心を育てることができた。

○校内授業研究会や教員研修会に高名な講師を招いたり、先進的な教育を進めている学校を視察したりすることで、教員の力量が向上し、教育活動の質を高めることができた。



【総合】愛知県立盲学校の子と交流をする4年生



【国語】地域講師の方と俳句をつくる5年生



【総合】地域講師を招いて話を聞く3年生



「助成金」を活用して講師を招聘した校内研修会

